

令和6年度 学校に関するアンケート【保護者】 結果と分析

1. 実施について

- (1) 実施時期 令和6年 11月1日～12月2日
- (2) 実施方法 Google フォーム用いたアンケート調査
- (3) 設問数 11項目(4項目削減)
- (4) 回答項目 「A よくあてはまる、B あてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらない、E わからない」の5項目
- (4) 回答率

	回答率
小学部	66.3%
中学部	77.5%
高等部	47.1%
合計	63.1%

- (5) 分析方法
ABの回答を肯定的意見、CDを否定的意見として分析

2. 昨年度との変更点

実施方法

11月1日、Google フォームのリンクを保護者に「eメッセージ」で配信

11月26日、回答期間の延長し、リンクを掲載した案内を紙媒体で保護者に配布

項目

- ・学校運営に必要な項目を厳選
- ・回答者の負担軽減を考慮

3. 結果と分析

- ・回答率は、昨年度(51.3%)より、11.8%増。
- ・各項目の肯定的評価は、昨年度より微減したものの、全体平均は昨年度(77.4%)より2%増

〈特に高評価な項目〉

- 1.「授業参観や学校行事で学校の様子を知ることができる」(90.7%)
- 2.「教職員は日常の教育活動で子どもの人権を十分に尊重している」(87.6%)
- 3.「学校の児童生徒指導の方針に共感できる」(86.2%)

・2の項目については、教職員アンケートでも肯定的評価が88.8%と高い評価となっている。

〈課題の見られる項目〉

- 1.「学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(52.4%)
- 2.「学校は子どもの将来の進路や職業について適切な指導や助言を行っている」(68.4%)

改善点

1. 学校はいじめ対応についての理解

肯定的評価が52.4%と低く、「わからない」が43.6%と非常に高い割合を占める。教職員アンケートでは、いじめ対応への肯定的評価が76.9%と高く、対応体制が整っていると認識があるが、保護者との間に大きな認識のギャップが見られる。

いじめ事案が発生していない場合、保護者が学校の対応方針を把握しづらい可能性がある。本校ではいじめの未然防止を今年度の学校経営計画の重点目標に位置付け、「学校いじめ防止基本方針」の年度ごとの見直し、「いじめに関するアンケート」の毎学期実施など、学校組織として子どもたちが安心して学校に通えるよう、いじめへの対応を行っている。保護者の方に安心していただけるよう、今後も情報を発信していく。

2. 進路や職業選択についての適切な指導

「子どもの将来の進路や職業について適切な指導や助言を行っている」の肯定的評価が68.4%と低めである。一方、教職員アンケートでは進路指導について肯定的評価92.3%と高い結果を示しており、認識のギャップが見られる。

進路を具体的に考えていく高等部の保護者からの回答では肯定的評価が85.4%である。「わからない」の回答については、小学部21.3%、中学部が17.4%、高等部が8.3%となっており、特に小学部段階で、進路や職業選択についての指導へのイメージがもちにくいことがわかる。

今年度、高等部との職業に関する授業交流(職業の授業見学、実習体験、授業交流)を小中学部で実施。中学部では校内実習体験を実施。小学部段階からの進路指導を進めているところである。今後も本校での進路にかかわる取り組みについて、保護者の方に情報発信を行っていく。